

『武蔵野市民科の充実に向けて』

社会の一員としてよりよい地域・社会づくりに参画していく
3年間を見通した資質・能力の育成

教育委員会あいさつ

武蔵野市教育委員会 教育長 竹内道則

本市教育委員会は、「第三期武蔵野市学校教育計画」の基本理念として、「自ら人生を切り拓き、多様な他者と協働してよりよい未来の創り手となる力を育む」ことを掲げています。

正解のない問いに向き合う時代を生き抜くためには、納得解や最適解を得ることが必要となります。一人一人の幸せや価値観は異なりますが、自分のよさや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働しながら社会性を身に付けていくことが重要です。武蔵野市民科を通じて育成する資質・能力である「自立・協働・社会参画」は、まさに社会性を育む取組と言えます。

本校では、武蔵野市民科を通して目指す生徒像を、「大人になって、世界のどこの国、どこの町にいても、一市民として協働し、社会参画できる人」と設定し、3年間を見通した教育課程を編成した武蔵野市民科の授業を研究、実践されました。本リーフレット等は、各学校の武蔵野市民科の充実に大きく寄与するものです。

結びになりますが、本校の研究を御指導くださいました講師の先生方をはじめ関係の方々に御礼申し上げますとともに、第二中学校の教職員の皆様の御努力に敬意を表し、あいさついたします。

校長あいさつ

武蔵野市立第二中学校 校長 菅野由紀子

令和2年初頭に発生した新型コロナウイルス感染症の猛威により、学校は今までとは異なる教育活動の在り方を模索してきました。予測困難な状況であればあるほど、生徒一人一人が他者ととともに課題や困難の解決策を考え、よりよい選択をよりよい生き方につないでいく学習活動が求められます。

こうした背景の中で、本校は令和3・4年度の2年間、『大人になって、世界のどこの国、どこの町にいても一市民として協働し、社会参画できる人』を目指す生徒像に掲げ、武蔵野市民科の研究を進めてまいりました。そして、研究の要を「自立」「協働」「社会参画」とし、自他共に幸福な人生の創り手となるために必要な資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメントの確立に努めました。今後も研究の成果と課題をもとに改善を積み重ね、さらなる武蔵野市民科の充実を図っていく所存です。

最後になりましたが、研究にご協力いただきました地域や関係諸機関の皆様、2年間で指導いただきました講師の皆様に心から感謝と御礼を申し上げ、あいさついたします。

令和5年1月17日(火)

武蔵野市立第二中学校

武蔵野市民科研究構想図

〈生徒の実態〉

- 人の役に立ちたい。
- 協力することは楽しい。
- 見通しをもちづらい。
- よりよい地域や社会づくりへの関心が低い。

学校の教育目標

- 進んで学習する人
- 心身ともに健康な人
- 夢の実現を目指す人

〈教育課題〉

- 主体的に取り組む態度の育成
- 豊かな心の育成
- 自らの思考を客観的に捉える力の育成
- SDGsの理解と実践
- 情報活用及び発信能力の育成

〈武蔵野市民科の授業を通して目指す生徒像〉

大人になって、世界のどこの国、どこの町にいても
一市民として協働し、社会参画できる人

研究主題

武蔵野市民科の充実に向けて
社会の一員としてよりよい地域・社会づくりに参画していく
3年間を見通した資質・能力の育成

研究の仮説

学校が「自立」「協働」「社会参画」を重視した学習活動を工夫し、3年間を見通した市民性の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントを確立すれば、よりよい地域や社会づくりに積極的に加わっていかうとする生徒を育成することができるだろう。

研究推進のキーワード

- [自立] 自己理解、自己管理、情報活用能力、批判的思考力、規範意識、責任感、自己肯定感等
[協働] 他者理解、人間関係づくり、目標達成に向けた他者との協力、自己有用感等
[社会参画] 社会的課題等への理解、よりよい地域や社会づくりに向けた課題解決力、公共心等
[カリキュラム・マネジメント] 総合的な学習の時間を軸とし、3年間を見通した武蔵野市民科につながる学習活動の編成・実施・評価・改善
[SDGs] 武蔵野市民科の活動を貫く柱、これまでの指導の見直し・改善の視点

研究の概要



総合的な学習の時間：「SDGs」「セカンドスクール」「職場体験」「修学旅行」「キャリア教育」

1年 セカンドスクール 自立・協働

5月に新潟県十日町市へ行きました。事前・事後学習を通して、伝統の継承や自然との共生の大切さ等を学びました。

訪問中は、地域の方と連携して作業する等、地域社会での協力の大切さを学びました。セカンドスクールを通して、第二中学校の生徒一人一人が協働する意識を高め、よりよい学校づくりを考えるきっかけとなりました。

事前学習

新潟県十日町市と武蔵野市との違いや、SDGsとの関連を学習者用コンピュータを活用しながら調べ、個人新聞を作成しました。

訪問先の取組とSDGsとの関連を考えました。



22 野鳥にふれて
松之山は野鳥の宝庫！

これからセカンドで十日町市十日町市松之山には、140種近くの野鳥が生息しており野鳥の宝庫と呼ばれます。その中でも、野鳥の宝庫はアサギカバネ。カワセミの仲間。松之山では5月～9月にみられる。夏鳥。松之山ではササエドリと呼ばれ、オオノリを知らずる鳥として知られています。



情報活用能力

体験学習

現地での体験活動を通して、人々が共に助け合い、学び合いながら、自然と共生する生活様式を知ることができました。



▲工芸体験

松之山ならではの生活の知恵や工夫がありました。



▲田植え体験

人間関係づくり

事後学習

武蔵野市と松之山の相違点を踏まえ、気付きや学びを班ごとに発表しました。自分たちの住む地域への理解が深まりました。

ドキュメントやスライドを活用して、原稿を共同編集しました。



他者との協働



今後の自分たちの暮らし方や生き方についても考えていこう。

次の学年へ

2年 職場体験 自立・社会参画

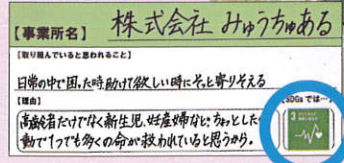
7月に職場体験を行いました。武蔵野市内での就労体験を通して、社会の一員としての礼儀やマナーを学ぶとともに、働くことの意義や社会の中での役割を考え、職業観を深めました。

また、職場での様々な交流を通して、地域の人々がよりよい社会をつくるため、結びつき、互いに支え合っていることを知ることができました。

体験する職場や職種が地域や地球にどのように貢献や配慮しているか考えてまとめ、掲示して意見交換を行いました。

情報活用能力

SDGsを業務内容と関連付けて考えました。



実際に仕事を体験し、職場の方にインタビューをして地域や地球との関わり方について学びました。



▲パティスリーウルソン

規範意識



▲JR 三鷹車両センター

責任感・公共心

体験学習について新聞にまとめ、事業所ごとに発表し、働くことの意義や仕事と人々の生活の関わりを学びました。



自分と社会とのつながりや関わり方についても考えていこう。

社会的課題への理解

次の学年へ

3年 修学旅行 協働・社会参画

6月にSDGsへの取組が高く評価されている京都・奈良に行きました。

「伝統文化の継承や景観維持のために、古都ではどんな工夫をしてきたのだろう？」「現在抱える問題や取組は？」等、班ごとに研究テーマを通して、先人たちの知恵と工夫から市民性を学ぶ機会を得ることができました。

着物、京野菜、火災、ごみ問題、伝統継承者の育成等、研究テーマを設定し、学習者用コンピュータでスライドを作成しました。

社会的課題への理解



情報活用能力

班行動の際は、SDGsの17のターゲットを踏まえて、よりよい地域・社会づくりの観点から、見学地を調査しました。

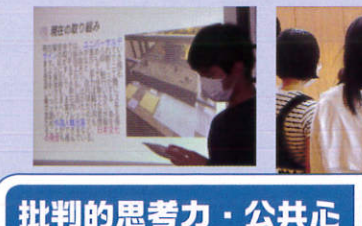


社会的課題への理解



▲街の景観への配慮を発見

発表を通して、今後の私たちの暮らしや、今後の武蔵野市に置き換えて考え、よりよい地域・社会づくりにつなげました。



批判的思考力・公共心



ジャムボードを活用して、質問や改善案を共有しました。

卒業後の自分の進路や将来の生き方について考えていこう。

市民性を向上させる教育活動



総合的な学習の時間「職場体験」

第2学年 令和3年11月

武蔵野市立の雑木林公園「境山野緑地公園『独歩の森』」と『むさしのエコreゾート』で、職場体験を行いました。

『独歩の森』では、緑地の保全活動に取り組みました。地域に住む方々の「貴重な緑を保全したい」という思いが、協働となり、社会参画につながっていることを学びました。

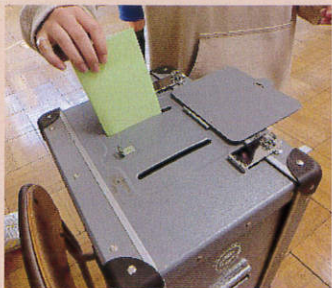
『むさしのエコreゾート』では、クリーンセンターの機能について学んだあと、グループに分かれて施設や事業内容の紹介方法を考案しました。情報活用能力を高める実践となりました。



家庭科「消費者教育」

第3学年 令和4年9月

武蔵野市消費者センターから講師をお招きして、「オンラインゲーム利用の注意ポイント」等、消費者トラブルの防ぎ方について具体的な事例をもとにグループワークをしました。自己管理や責任感について学びました。



生徒会役員選挙

全校生徒 令和4年9月

立候補者と推薦人がオンラインで立会演説会に臨み、その後、実際の投票会場を再現して投票を行いました。

よりよい学校づくりに向けた他者の考えを理解し、投票することへの責任について考える機会となりました。



道徳授業地区公開講座

全校生徒 令和4年11月

道徳授業の後、「市民性を高める道徳シンポジウム」を行いました。シンポジウムでは、1年生から3年生までの各学年代表と保護者・地域代表が体育館のステージ上で『一市民として協働し、社会参画することについて考えよう』をテーマに、異なる視点から討論しました。

社会の一員としてよりよい地域・社会づくりに参画していくことの意味や意義について、中学生の立場と大人の立場から考えを深めました。



部活動

ギター部 令和4年7月～11月

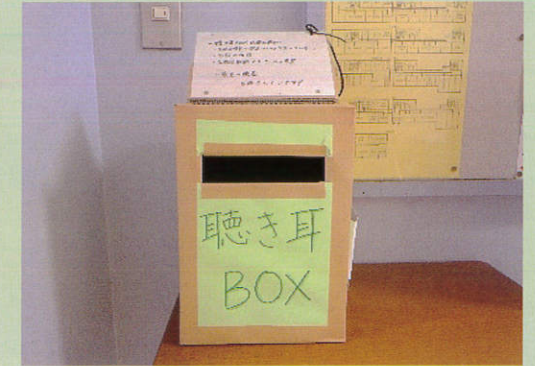
夏休み最初の日曜日に、二中体育館に保護者や地域の皆さんをお招きして、日頃の活動の成果を発表しました。吹奏楽部とともに、地域の文化祭でも演奏活動を行い、協働と社会参画につながる活動となりました。

生徒会主催の協働・社会参画活動

二中の生徒会では、年に2回、専門委員会や部活動と協働してバレーボール大会を企画・運営しています。また、生徒の意見を生徒会活動に反映させるために「聴き耳ボックス」を設置して、生徒の参画意識の向上を図っています。



バレーボール大会



聴き耳ボックス

成果

- セカンドスクール、職場体験、修学旅行の学習活動を通して、SDGsの視点から地域の特色を生かした地域活性化の工夫に気づき、持続可能な社会の実現に向けて地域の一員としての意識が高まった。また、地域や社会をよりよくする方策を学び、職業と市民性・SDGsの関連性について考えを深めることができた。
- 各教科や道徳科の学習活動を通して、生徒は多面的・多角的に自分の考えや行動を振り返り、社会や地域との関わりに多様な考え方があることに気付くことができた。
- 生徒会による「SDGsに関するアンケート」や、各委員会による省エネルギー活動を立案する等、生徒は主体的に課題意識をもち、活動に取り組むことができるようになった。
- 教育活動のあらゆる場面で自己理解・他者理解を高めて社会的課題を見つめ、課題解決を図りながら、生徒は固定観念にとらわれない自由な発想で、主体的に取り組む姿勢を育成することができた。

課題

- 今後も学校のカリキュラム・マネジメントを「市民性の育成」の視点で見直し、全職員がすべての教育活動で生徒の市民性を育成する活動場面を工夫し、一貫性のある指導に取り組んでいく。
- 「自立」「協働」「社会参画」の視点から、学習活動のP(計画)・D(実践)・C(検証)・A(改善)を継続的に進めていく。
- 本校の傾向として、ディスカッションで自分の意見を述べることに消極的な生徒や、意見に客観性が足りず意図が伝わりにくい生徒が多い。生徒が話し合う場面を意図的に設定し、振り返りをさせながら社会参画への意欲を育てる。また、筋道を立てて考える、考えたことを説明することを苦手としている生徒も多い。社会の一員としての役割を果たすために、学習活動の中で論理的に説明する場面を意図的に設定する等の工夫を図る。
- 学校が保護者、地域への武蔵野市民科の情報発信と学校行事等への参画を促し、地域社会との協働体制をもって、生徒の市民性育成の基盤を創り上げていく。



* 学習活動を工夫していく視点 *

- ① 疑問をもち、追究していく学習（課題設定）
- ② これまでの総合的な学習の時間を生かす学習（情報収集）
- ③ 何を学んだか、どのような学びがあったかを実感できる学習（整理・分析）
- ④ 地域や社会にどう関わっていくのかを考え、発信・実行できる学習（発信・実行）
- ⑤ デジタル機器を活用する学習

* 「市民性」に結び付く学習内容(学習例) *

「市民性」に関する学習内容は、各教科等の学習内容に含まれています。各教科等における「市民性を育てる」という視点を明確にし、単元計画と学習内容を整理して、授業を展開しました。

- 各教科
- ・国語：「情報を発信するときや受け取るとき留意点」「合意形成の重要性」
 - ・社会：「基本的人権の尊重」「地方自治（直接請求権）」「武蔵野市の特色」
「地球社会と私たち（SDGsと関連して）」「多様な民族・文化と人々の生活」
 - ・数学：「データを活用し課題解決に活かす」「標本調査を用いて集団の傾向を分析する」
 - ・理科：「身近な自然環境の調査」「自然環境の保全」「生物の観察」「植物の分類」
 - ・音楽：「校歌（伝統尊重・地域理解）」「日本の伝統音楽」「郷土芸能」「世界の諸民族の音楽」
 - ・美術：「公共の美術に関する学習」「鑑賞を通じた多様性への共感・理解」
 - ・保健体育：「礼儀の大切さと相手を尊重する態度」「チームで作戦を練る」「思いやりと協調」
 - ・技術：「地域の小学生を対象にしたプログラム講習のためのゲームデザイン」
 - ・家庭：「よりよい消費生活のために～大人になる前に知っておこう消費者トラブルの防ぎ方」
「食品ロス・食品と自給率など食生活の様々な問題について」
 - ・英語：「自分の町についての考えを述べる」「市のフェスティバルのテーマを決める活動」
- 道徳科：「自由と責任」「相互理解・寛容」「主として集団や社会との関わりに関すること」「生命尊重」
- 総合的な学習の時間：「SDGs」「セカンドスクール」「職場体験」「修学旅行」「キャリア教育」
- 特別活動：「協力と自己の責任」「自己の適性や個性」「さまざまな人の生き方」「進路選択」

謝辞

武蔵野市立第二中学校 副校長 田 中 淳 一

本校は、2年間にわたり武蔵野市教育委員会の教育課題研究開発校の指定を受け、「武蔵野市民科」の研究を進めてまいりました。生徒が武蔵野市民科の学習等を通して市民性を身に付けていくことで、未来社会の担い手となり、どこにいても一市民として協働し、社会参画できる人になることを教職員一同願っております。学校は時代の変化に対して既存の教育を見直す必要を迫られており、本校では日々トライ・アンド・エラーを合言葉に教育活動の工夫に取り組んでいます。今後もこの研究活動を通し、私たち教職員も常に学びの姿勢を忘れず自己研鑽に励んでまいります。

最後に、本校研究発表におきまして日ごろから本校の教育活動にご理解ご協力いただいております保護者の皆様、地域の皆様、関係者の皆様にお礼を申し上げますとともに、ご指導いただきました先生方におかれましてはご多用の中、多くの場面でご指導ご鞭撻をいただきありがとうございました。

研究でご指導いただいた先生方

國學院大學 文学部	教授	澤 田 浩 一 様
東京女子学院中学校高等学校	校長	野 口 潔 人 様
武蔵野市立境南小学校	校長	宮 崎 倉太郎 様

研究に携わった教職員

◎ 研究委員長 ○ 研究委員

《令和4年度》

校 長	菅野 由紀子				
副校長	田中 淳一				
1 学 年	宮鍋 武徳	篠原 卓史	松崎 敏和	○鉄 美沙紀	○齊藤 匠平
	早川 夏子	松井 晶揮	大平 優歌	○宇都宮 佐和子	
2 学 年	○佐藤 智彦	森田 開	川邊 真梨子	米田 七海	
	川島 文恵	○鈴木 佑樹	竹内 優子	○吉野 哲也	
3 学 年	武智 千春	◎伊藤 俊介	大山 和	○武原 由佳	
	三宅 健司	井形 義紀	大沢 武弘	佐藤 鈴代	
養 護	湯谷 恭子				
専門員	鈴木 みのり	(特別支援教室)			
事 務	重本 供	宮谷 敬子	今野 ひとみ		
用 務	風山 豊樹	下川 真由美			

《令和3年度》

二日市 克	佐藤 歩	坂下 友美	川嶋 慶子
武井 恭子	土屋 友紀	小松 摩美	品川 勝



ムサシくん

創立70周年記念に生徒会が募集した
マスコットキャラクター